

2020年1月1日

日本ボーイスカウト北海道連盟

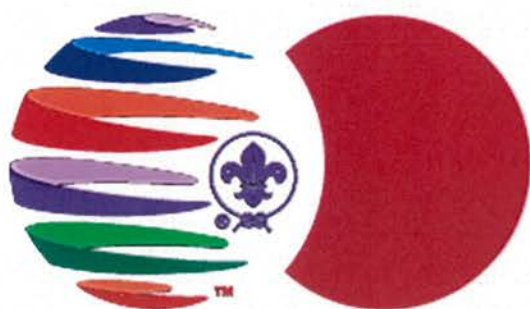
156号



斧の響き



第24回 世界スカウトジャンボリー



Japan Contingent
**24th WORLD SCOUT JAMBOREE
NORTH AMERICA 2019**

名称：第24回世界スカウトジャンボリー（略称：24WSJ）

会期：令和元年（2019年）7月19日～8月6日

会場：アメリカ ウェストバージニア州

北海道連盟からの参加人数

参加スカウト	編成隊指導者	大会運営スタッフIST
8	1	1





「24WSJに参加して」

帯広第4団 ベンチャー隊 笠井瞳

小さい頃から憧れてきた世界ジャンボリーは、事前訓練の時から今までに感じたことのない興奮や、スカウト活動に対する誇りを感じ身の引き締まる思いでした。A分団1隊のスカウトと何気ない生活を共にする中で、日を重ねていくほど「A分団1隊の仲間とずっと活動ができれば」という思いが膨らみました。プログラムは、斧投げやボルダリング、ペイントガンやウォーターリアリティなど2週間ではとても回りきれないほど用意されており、時間があっという間に過ぎてしまいました。また、世界中のスカウトとの交流はプログラム以上に楽しく、貴重な経験ができたなと思えました。お互い片言の英語を使い、物を交換したり、時には遊んでいる間に自然と輪ができていたこともありました。世界ジャンボリーに参加させてくれた両親には頭が上がらないほど感謝していますし、サポートしてくださった方々にも敬意を表したいと思います。また、この経験を生かし、少しでも日本にボーイスカウトが浸透してもらえよう、これから活動を起こしていきたいと思えます。



帯広第4団 ベンチャー隊 斎藤環



私が世界スカウトジャンボリーで過ごした日々は夢だったのではないかな。それほど楽しかったのだ。まさか、アメリカに来てまで「いか踊り」を踊る羽目になるとは。また、外国のスカウトとも物をたくさん交換した。別の区画のサイトに行ったとき、アメリカのスカウトが走ってきて、特に何かしたわけでもないのにワッペン数十枚、ピンバッジ40個、制服、ベルトを私に見せ、「全部あげるよ。」と言ってきたのだ。放置するのも気が引けたので、ありがたくいただくことにした。まさに、ノーリスクハイリターンだ。振り返ると、まだまだ書き足りない。不祥事を「アメリカだから。」という言葉で片づけたあの日。私が戦犯となった夕飯のタイ米。失敗を失敗のまま終わらせないためにも、一步一步前進していくとともに、次の世代へとつなぎ、いい経験を積んでもらえるように導く。ジャンボリーへの恩返しは始まったばかりだ。





「世界ジャンボリーに行ってみて」

札幌第1団 ベンチャー隊 後藤弘樹

今回世界ジャンボリーに行ってみて、色々なことがあった。海外スカウトとの交流やスキューバダイビング、ウォータープログラムそして開会式のドローンを用いた光のアートなど話題には事欠かない。しかし、今回の MVP として取り上げたい仲間が一人いる。それは、札幌10団所属の池田景松だ。何故なら世界ジャンボリー中に坂を駆け下りて捻挫を起こしたからだ。実際に気の毒ではあった。しかし景松は、普通なら塞ぎ込んでしまうなか、世界ジャンボリーを楽しくしようとしていた。もし僕がアメリカに行って捻挫になってしまったとしたら、僕はジャンボリーを楽しむ気持ちはなくなっていたでしょう。しかし景松は世界ジャンボリーを満喫していた。アクティビティに参加できずとも世界ジャンボリーは楽しめるということ、そして人生初の捻挫をしてしまったのにも関わらず、笑い話として提供していた度量の広さで、景松の評価はだいぶ変わった。怪我をしても楽しもうとした心の在り方は、大げさかもしれないが人生の手本になる考えだったと僕は思った。もっと他にあった気もするが、やはり僕の最大の思い出は景松捻挫事件だ



「24WSJ 報告」

札幌第1団 ボーイ隊 藤田牧継



今回僕は24回世界スカウトジャンボリーに行ってきました。まず、世界ジャンボリーは日本ジャンボリーと違い「班」での行動が主です。そのため、活動をし始める時間も班によって違います。人気のあるプログラムをしたいのなら、5時くらいに起きて出発します。しかし、特にやりたいプログラムがなければ9時くらいまで寝てもいいのです。そして、就寝時間は、起床に比べるとみんなほぼ同じです。なぜなら、会場は23時～翌5時までクワイエットタイムというのがあり、静かにしなければいけないからです。それがあってのおかげで、早く寝る理由ができ、さらに静かにねることができました。世界ジャンボリーは規模がデカいだけに、細かなところまで気配りが行き届いているのでした。





札幌第1団 ベンチャー隊 三上一輝

僕はジャンボリー会場で沢山の経験をしました。沢山の国の同じ世代の仲間たちとの二度と出来ない素晴らしい思い出です。海外渡航の経験が乏しい僕は、ただ学校で習った英語力でとても心配でした。ですが、向こうでのコミュニケーション「Hi!」や、ハイタッチなどの簡単なものでかつ何か説明や要求されているときは不思議と何を言われているのかがわかっている気がします。また、国が違う相手でもボーイスカウトの仲間であることから“初対面”から“古くからの仲間”のようになって一緒に騒ぎ合えたあの空間はなかなかないものではないかなと思います。国が違っても年が近いので考えていることや感じていること、したいことは同じで僕は世界はもっと一つになれると思いました。



札幌第10団 ベンチャー隊 池田景松



今回の世界ジャンボリーでは、日本では体験できないようなことに数多く触れる機会がありました。それは、海外スカウトとの交流と海外派遣です。すれ違う人や隣のサイトなど、沢山の海外スカウトと話したり、交流することが出来ました。また、個人的に海外に行くのは初めてで、日本とどんな違いがあるのかと楽しみでした。箱を開けてみると、そこまで日本と変わり無いようにも見えましたが、日本人は全く居ないし、ベラベラと訳分からん言葉を話し、顔も全然違いました。ですが、やはり人間なのか、皆優しく接してくれました。私はアメリカで骨折をしてしまい、あまり出来ませんでした。やりたかったこと、見てみたかったことなどは全てできたと思うので、今回の派遣は今後のスカウト活動ならびに人生にも大きく影響すると思います。この経験ができたのも、親や周りの関係者の方々のお陰だと思います。これからは、その人達に恩返しするようにスカウト活動に励んでいきたいと思いました。





札幌第 10 団 ベンチャー隊 小野愛実

私は今回、アメリカでひらかれた 24WSJ に参加してきた。不安が多かったけど、周りの人のおかげでその不安は解消された。キャンプ地のサイトは想像を超えた大きさと、同じ敷地内の沢山のプログラムに行くことができたり、他の国の人とすれ違ったりするので沢山交流することができた。プログラムは大規模で、山の中を進んだり、川に落ちて遊んだり IST の人と話して日本語を教えたりして楽しかった。Mini Zip では自分がドローンになったように空を切っていく体験ができた。マウンテンバイクでは山の中をどンドンと駆け下りて行って木の根っこや岩の感触を楽しむこともできた。海外の人との交流の機会は予想以上にあり、英語を使っているにも関わらず楽しく会話できたのは嬉しかった。さらに今大会では「ノーバス」が導入されて、会話をした人などと手軽に SNS 等を交換できた。バッチなどのスワイプは道端やサイト、チェンジングセンターで盛んに行われていて多種多様なバッチが置いてあった。今大会の US のクマが個人的にとってもかわいくて沢山手に入れられたのはとても嬉しかった。交流会は南アフリカ共和国と行い、新しい発見が多かった。最後に、このように最高の経験ができたのは大会を運営してくれた IST の皆さまや第 1 隊を支えてくれた隊長副長、出発前に応援してくれた札幌第 10 団の皆や両親のおかげです。本当にありがとうございました。



札幌第 22 団 ベンチャー隊 久光怜音



今回はアメリカ開催ということもあり、前回よりもスケールはより大きく、そして楽しいものになると期待していった。やはり心に残ったプログラムはラフティングだろう。川に飛び込んだり、ボートによじ登ったり、協力して漕いで前進したりと楽しかった。他にも宗教儀礼も印象深い。日本スカウトは行くとしたら仏教かキリスト教に行くだろう。しかし、私はゾロアスター教に行った。日本では知名度も低く、まず知る機会もない宗教に私は惹かれた。結果として英語による集会でほぼ意味は分からなかったのだが、それでも行ってよかったと思う。私の考えるジャンボリーの最大の目的は異文化交流だと思う。前半はものの交換に精を出し、後半は食に生を見出した。気づけばチーフは 9 枚もあった。他にも T シャツは三枚程交換で手に入れた。そして食についてはとりあえずドイツ料理をおす。他にもコロンビアやポルトガル料理なんかも食べたがドイツ料理の肉とポテトが美味しかった。本当にお金を出してくれた人、情報をくれた人、そして指導者たちに向けて感謝しかない。仕方がないこととはいえ閉会式は見たかった。大会運営側の突然の変更は仕方がないとはわかってはいる。そんなアクシデントも含めて楽しいジャンボリーだったと思う。大会スタッフの方々にもありがとう。



「24WSJ～最高の思い出をありがとう～」

名寄第1団 戸田弥祥

前回に続き二回目の世界ジャンボリー参加。今回はスカウトとしてではなく指導者として参加した。副長として参加することができて心から良かったと感じている。正直内定通知が来てからは、指導者として参加することへの不安の方が大きかった。しかし、スカウトと年齢が近かったからこそスカウトのおかげで副長としてとても楽しませてもらえて、指導者として大きく成長できたのではないかと感じている。今回の24WSJの開始地はアメリカ。広さ、プログラム、食事、設備、救護体制など何もかもが凄かった。多種多様なプログラム、会場全のWi-Fi環境、常設のシャワールームとトイレ、ドローンパフォーマンス、スマホアプリと連動されたノーバスの配布(参加者全員)、ポイントで購入する食材配給、米軍総出の安全管理と救護体制など驚きの連続だった。最後に、理事長をはじめいろんな方から声をかけていただき、参加に同意してくれた隊長や母のおかげで参加することができた。この歳で派遣隊の副長として参加できて、たくさんの事を学べて、スカウトの時とは違う発見ができたということは本当に貴重な経験だった。今後はこの経験を後輩スカウトに伝え、ジャンボリーに興味を持って参加してくれるスカウトが増えるように、さらに北海道のスカウティングを発展させていけるように努力していく。



第24回世界スカウトジャンボリー報告」

札幌第4団 ローバー隊 ラトル斗士治

私は「第24回世界スカウトジャンボリー」に日本派遣団の国際サービス員(IST)として参加しました。ISTの準備訓練は4回ありました。最初の準備訓練では東京のスカウト会館にてISTの顔合わせ、直前の訓練は国立オリンピック記念青少年総合センターにて日程や渡航手続きの確認、結団式、壮行会などが行われました。この準備訓練で情報共有があったからこそ、大会開催地で快適なキャンプ生活を送るための準備ができました。私たちは本部で用意されたテントと折り畳みベットで生活し、食事はスタッフ食堂で取りました。また、私が担当したJobはRegistrationで主にサブキャンプ本部で参加隊を受け入れました。体力的には疲れましたが、海外のISTメンバーとコミュニケーションをしながらボラン

ティアした思い出は自分の資産になりました。作業がない日は会場で行われているセレモニー（開会式、アリーナショー、閉会式）やプログラム（アーチェリーやロッククライミングなど）に参加しました。今回の世界スカウトジャンボリーは非常に意義のある経験をする事ができました。次回の世界ジャンボリーにも時間が許せば参加したいです。



BS/VS合同野営

《ジャンボレット in 真狩》



「BS・VS合同野営 ジャンボレットIN真狩」 総括

北海道連盟コミッショナー 今井 建

- ・7月31日～8月4日の4泊5日の野営をボーイスカウト真狩キャンプ場にて行った。
- ・参加者はスカウト32名リーダー16名ではあったがリーダーはスカウトの送り迎えを兼ねての参加であったため2日目3日目はリーダー8名という少人数になった。
- ・今回は班での活動を重視しプログラムまた献立も班に任せた。

プログラムも

真狩キャンプ場にあった自転車を整備してサイクリング

サイクリングからの登山

真狩ハイキング

釣り

野営工作等

いろいろな活動を展開することができた。安全面を考え班活動には必ず班担当のリーダーを配置した。

- ・スカウトには毎日活動費1000円食費1000円を支給し毎日会計の報告をさせた。思いのほか残金のある班が多かったように思う。
- ・全体のプログラムは開会式、閉会式、朝礼、キャンプファイヤー、交流会を開催した。
- ・朝礼は当番班によって進行させた。
日々の目標は「手順」「経過」「班活動」「感謝」とした。
- ・交流会、キャンプファイヤーは打ち解けた中、楽しく終えることができた。

- ・4泊5日の野営を通して感じたのは班活動にベンチャーがいるということでの安心感があったこと。また小学生たちが楽しそうに薪を割り続けたり一生懸命火を起こす姿も見ることができた。参加者それぞれが班活動を中心とした野営生活の中で成長できたと思う。

班に任せっきりという部分で出番が少なく不満のあったリーダーもいたかと思うがボーイスカウト本来の班活動に近いものはできたと思う。次回があるとするなら技能章や進歩につながるプログラムへの誘導という部分も考えたい。

全国防災キャラバン2019

会場名：イオンモール札幌苗穂
 実施日：9月8日（日） 8：00～17：00
 来場者数：111名
 相談を受けた人：3名
 スタッフ：10名

全国防災キャラバン2019 実施報告書

提出先⇒ボーイスカウト日本連盟事務局 メール：hello@scout.or.jp
 ファックス：03-5805-2908

※写真は別途メールに添付してお送りください。データが重たい場合は、ファイル便などをご活用ください。

※来場者数には、子どもの人数をご記入ください。集計時に、保護者分を一律で追加します。

県連盟名	北海道連盟	報告者氏名	扇間 康弘		
報告者役務	副理事長	報告者連絡先 メール/電話	bs-hokkaido@douren.org 011-823-7121		
会場名	イオンモール札幌苗穂	実施日	9月8日（日）8：00～17：00		
来場者数	111	相談を受けた数	3	スタッフ数	10名

プログラム内容
 （工夫のポイント）

- ・受付、PRコーナーを設け、アンケート、ボーイスカウト活動の体験希望の署名、パンフレットの配布、3コーナーを回ってスタンプを押し終わったら景品を渡す流れにした。
- ・ロープ結びの体験（ロープ結びの見本、避難に必要なロープ結びの体験）
- ・防災グッズを利用したキムスゲームを実施した。
- ・ブロック塀積み上げゲーム

会場が狭いため受付を合わせて4コーナーで行った。

組織拡充のための取り組み
 各団の活動状況、パンフレット、地区誌などの配付等を行った。任意でボーイスカウト活動体験希望の方には連絡先を記入していただいた。後日、住所の近い団から活動案内の情報を送付。

来年への反省、他県連盟へのアドバイス



社会連携・広報フォーラム

講演タイトル	10万人の力をひとつに 「全国社会連携・広報フォーラム」
日時	2019年10月27日(日) 9時00分～12時00分
会場	北海道神宮参集殿
主催	ボーイスカウト日本連盟
対象	団の広報やスカウト募集に携わる指導者
担当者	井上義雄(京都) 久保田太郎(大阪) (社会連携・広報委員会フォーラム小委員会)
内容	世界最大級の青少年活動であるボーイスカウト。日本社会の中で、子どもたちの取り巻く環境が変化し、貧困の蔓延やデジタル化など、看過できない社会的課題が数多く存在しています。「なろう!一人前に」をキャッチコピーに掲げて、10万人の力を繋げて、今こそ、一人でも多くの青少年にスカウト活動のもつ素晴らしい価値を体験する機会を提供しなければと思っています。今回のセミナーでは、広報ツールの活用、WEBによる情報発信、及び助成金獲得について、何が必要で、実施に当たってのポイント、そして事後の報告など具体的なノウハウを参加者に知ってもらい、現場で汗する加盟員と「本気の」社会連携・広報委員が直接、交流する機会を経て、スカウト数増加の現場を実現することを目指して開催いたしました。



第61回 全道スカウティング研究協議会

- 1 テーマ：活動的で自立したスカウトを育てることを目指して
- 2 趣旨：2020年度に旭川市で開催される北海道カブラリー2020（仮称）の開催の準備として北海道の加盟員全員で取り組めるよう、カブラリーのプログラム研究を中心として開催しました。ボーイスカウト運動にとって喫緊の課題である活動の充実について、指導者・運営者が一堂に会し交流を深め、プログラム研究を通じて隊活動の活性化のヒントを見つけました。
- 3 主催：日本ボーイスカウト北海道連盟
- 4 協力：日本ボーイスカウト北海道連盟旭川地区
- 5 期日：令和元年10月19日（土）～20日（日）
- 6 会場：北海道旭川市高砂台3丁目8-3 扇松園
- 7 参加者：53名



令和2年度 ボーイスカウト北海道連盟運動推進方針・事業計画（案）

《北海道のボーイスカウト運動推進方針》

- ◇ 地区コミッショナーを中心としたスカウト運動の展開を実行し、隊・団の成人が進んで参画できる環境づくりを目指します。
- ◇ 2020カブラリー（仮称）を開催し、ビーバースカウトがカブスカウトへの上進につながる楽しいプログラム、カブスカウトが体験と思い出を残しボーイスカウトへの上進につながるプログラムを展開します。
- ◇ ビーバー、カブ年代の保護者にスカウト運動のweb情報を活用しPRを継続します。
- ◇ 地域社会や他の青少年団体との連携を深め、スカウト運動について啓発を図ります。

《具体的施策》

《ビーバー・カブ》

「2020北海道カブラリー in あさひかわ」「2020北海道ビーバードラム in あさひかわ」を開催し、ビーバースカウトがカブスカウトへの上進につながる楽しいプログラム、カブスカウトが体験と思い出を残しボーイスカウトへの上進につながるプログラムを展開します。

《ボーイ》

進歩課程の展開を進めるとともに、少人数隊の班制教育推進を図ります。

《ベンチャー》

進級意欲の向上と魅力あるジュニアリーダーの資質を育みます。

《ローバー年代》

日本連盟ローバースカウト会議への参加とRCJ事業への積極的な参加を奨励します。
社会性の涵養とグローバルな視野を広げるための機会提供に努め、若手指導者の育成を目指します。

《指導者養成》

地区コミッショナーの努力によりWBスカウトコースを毎年開催します。
全道指導者のスキルアップを目指し研究します。

《組織・運営》

社会の変化に対応した組織作りと運営に努めます。

《安全対策》

- ・体験者・見学者保険に引き続き加入します
- ・怪我・傷病の予防対策／リスクマネジメント／セーフ・フロム・ハーム／災害時の奉仕対応
- ・県連、地区、団において防災・危機管理について取り組みます



新春弥栄

2020 新春 誌上賀詞交換

あけましておめでとうございます

ボーイスカウト十勝地区協議会 会長

清水 拓也

謹賀新年

スカウトの仲間を増やして

運動の拡がりを

北海道連盟 連盟長

北海道神宮 宮 司

吉田 源彦

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

あけまして

おめでとうございます

北海道連盟 先 達

北海道連盟 顧 問

三浦 武

謹賀新年

ボーイスカウト北海道連盟参与

市場 尚延

謹賀新年

北海道連盟副連盟長
北海道スカウトクラブ幹事長
江別第2団ビーバー隊長

大橋 和子

謹賀新年

スカウトの目線で活動しよう！

ボーイスカウト北海道連盟副連盟長
札幌第10団 団委員長

長岡 正彦

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟相談役
日本ボーイスカウト北海道連盟スカウトクラブ副会長

入部 道之

あけましておめでとうございます
胆 振 地 区

地区協議会会長	滝口 信喜
地区協議会副会長	熊野 正宏
地区委員会委員長	小笠原 貢
室蘭第1团团委員長	高橋 忠義
室蘭第4团团委員長	小笠原 貢
登別第1团团委員長	木原 靖之
伊達第1团团委員長	辻 正博
苫小牧第2团团委員長	永井 承邦
コミッショナー	村中 啓子
副コミッショナー	月館 良治
事務 長	神 拓斗
事務 次 長	渡邊 昌彦
地区 会 計	佐藤 公英
地区 監 事	福井 洋幸
地区 監 事	佐藤 庄吉

新年のお慶びを申し上げます

石 狩 地 区

地区顧問	大橋 和子
地区顧問	猪股 巖
地区協議会長	佐々木 健三
地区副協議会長	永岡 裕
地区委員長	小林 幸治
地区副委員長	高塚 浄正
コミッショナー	川越 利朗
副コミッショナー	佐藤 雅秀
地区会計	田中 弘子
地区事務長	喜多 英司

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟相談役
日本ボーイスカウト札幌第26団 団委員長

前田 和道

あけましておめでとうございます

ボーイスカウト北海道連盟参与
ボーイスカウト室蘭第4団 副団委員長

西岡 浩

新春弥栄

札幌地区協議会

顧問	藤岡 順正
相談役	北野 義城
地区協議会長	樟本 賢首
(健康安全委員)	
地区副協議会長	北 秀継
(地区副委員長)	
地区副協議会長	前田 和道
地区委員長	菊地 一泰
地区副委員長	陰能 裕一
(野営場管理運営副委員長)	
指導者養成委員長	阿部 高久
進歩委員長	上原 克己
野営行事委員長	武市 喜博
広報委員長	千葉 邦郎
国際委員長	小原 由美子
財政会計委員長	荻根沢 一也
野営場管理運営委員長	村上 義憲
事務長	小竹 知己
監事	二木 恒治
監事	野内 吉徳
コミッショナー	扇間 康弘
副コミッショナー	瀧澤 ひろみ
副コミッショナー	武市 喜博
副コミッショナー	上原 克己

新春弥栄

留萌地区

留萌第1団 団委員長 櫛井 二三夫
留萌第2団 団委員長 下田 満
秩父別第1団 団委員長 寺迫 公裕
羽幌第2団 団委員長 小寺 克彦
稚内第2団 団委員長 遠藤 吉克
美唄第8団 団委員長 マンフレード
フリデリッヒ
地区協議会長 櫛井 二三夫
地区委員長 寺迫 公裕
地区コミッショナー 小笠原 祐治

謹賀新年

旭川地区協議会

地区顧問 野原 典雄
川村 武雄
森 豊
協議会長 松倉 信乗
副協議会長 高橋 明
地区委員長 浅野 玲子
地区副委員長 山口 淳
野行委員長 山口 淳
組織広報委員長 高橋 明
リーダー委員長 杉田 肇
野営場委員長 天満 昇
財政委員長 花田 芳人
会計 高橋 明
事務長 高橋 明
監事 池内 勝

コミッショナー 村上 政義
副コミッショナー 宮澤 多佳子
副コミッショナー 杉田 肇

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路地区

協議会長 蝦名 大也
地区委員長 田中 卓
地区コミッショナー 藤井 秀俊

新春弥栄

ボーイスカウト江別第2団
令和2年も元気で！

謹賀新年

北海道連盟監事
札幌第4団団委員長

北 秀継

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお願いたします

ボーイスカウト北海道連盟札幌第9団
育成会長 三浦 崇
副育成会長 北野 義城
団委員長 樟本 賢首
副団委員長 北野 和

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟
秩父別第1団 団委員長

寺迫 公裕

ボーイスカウト東川第1団

北海道連盟参与

小西 恒

北海道連盟上川地区委員長

佐々木 篤美

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路第6団

育成会長 菅原 宏樹

団委員長 白浜 正宣

副団委員長 藤田 茂

若行老支

北海道連盟スカウトクラブ

会長 永岡 裕

副会長 西岡 浩

副会長 入部 道之

幹事長 大橋 和子

幹事 岡田 聰

幹事 宮内 紀代志

謹賀新年

北海道連盟理事長

三国 久介

謹賀新年

スカウトに楽しいプログラムを!

日本ボーイスカウト北海道連盟

副理事長 下田 好徳

新春弥栄

ボーイスカウト北海道連盟

コミッショナー 今井 建

副コミッショナー 吉田 淳一

副コミッショナー 飯田 貴光

副コミッショナー 加藤 由麻

新春弥栄

WBスカウトコース参加者募集中

ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 池田 君松

新春弥栄

ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 北野 和

新春弥栄

ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 野内 吉徳



そなえよつねに
ボーイスカウト

斧の響き 156号 (2020年1月1日発行)

発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟 理事長 三国久介

〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3-40

北海道ボーイスカウト会館内

Tel 011-823-7121／ Fax 011-814-9377 E-Mail bs-hokkaido@douren.org